

第 4 0 1 回 定 例 会 議

# 一 般 質 問 通 告 一 覧 表

令 和 7 年 3 月

矢 板 市 議 会

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 1 議席番号 10 氏 名 高瀬 由子

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 トップセールスによる矢板PRについて —「魅力あふれる矢板」周知—</p>	<p>今年「大阪・関西万博」の年。「円安」が追い風となり、国内県内には外国人観光客が急増している。矢板PR事業については以前も一般質問させていただき「県の海外誘客プロモーションなどを生かしてトップセールスで矢板市の食や観光をPRする」との答弁をいただいた。</p> <p>森島市長の台湾訪問の翌週には、台湾からの矢板いちご狩り体験を含んだツアーが実施され、大好評であったと伺っている。</p> <p>また「株式会社やいた未来・株式会社チェリーランドさがえ 農業振興及び観光振興に関する連携協定」が締結され、先月には寒河江物産市も開催されて好評を博した。</p> <p>市長のトップセールスにより、矢板の魅力が周知され、今後の経済的効果も期待できる。国内外での今後の展望について伺う。</p>
<p>2 大阪・関西万博に向けて矢板の食と観光PRについて —「選ばれる矢板」へ—</p> <p>(1) 矢板の食と観光PRについて</p> <p>(2) 海外販路開拓支援補助金の有効活用について</p>	<p>矢板市では矢板市公式観光・産業海外展開支援ポータルサイト「DISCOVER YAITA」が開設されて閲覧者も増加している。矢板市内各所でQRコード等を使って来訪者をサイトに誘導したり、台湾インバウンドに取り組んだりすれば、閲覧者がさらに増加し、関心人口、関係人口の増加が見込まれる。</p> <p>大阪・関西万博では、栃木県のブースも開設される。また栃木県は、栃木県大阪センターでもPRを行ってきた。昨年3月「県の海外誘客プロモーションなどを生かして矢板市の食や観光をPRする」との答弁があったがどのように行っていくか、国内・海外に向けての矢板の食と観光PRについて当局の意向を伺う。</p> <p>矢板市に訪問した台湾の皆様が、いちごを購入し、翌日もホテルやバス内で食べていたと伺った。</p>

矢板市には、海外販路開拓支援補助金がある。

人流が増え、円安基調の今、国外に矢板市の名品を輸出する事で関心を持っていただき、インバウンドに効果的に取り組むことが可能である。県内でも多く来訪している台湾旅行客増加の可能性もある今こそ、これらを周知し事業者を支援してwin-winの形で取り組めば経済の活性化にもつながる。

海外販路開拓支援補助金の有効活用について当局の意向を伺う。

### 3 ふるさと納税について

#### —返礼品拡充で税収増を！—

##### (1) 協力事業者の拡充について

矢板市のふるさと納税については、destinationキャンペーン以前から、返礼品の拡充、体験型返礼品等について数回にわたって質問させていただいた。登録サイトが増え、レストランや娯楽施設、空き地維持管理等の登録も増え、担当課と地域おこし協力隊の皆様の御尽力に感謝したい。

矢板市のホームページには「ふるさと納税制度を活用した本市への寄附促進を図るとともに、矢板市の産業振興、市の認知度向上を目的として、矢板市に寄附をされた方に対する返礼品の拡充を予定」と掲載されている。協力事業者の募集に当たって、「電子メールによる発注にご対応いただけること」などの条件がある。電子メールによる発注が難しい方への対応や募集方法等について検討し、返礼品の更なる拡充を図ってはいかがか。

##### (2) 今後の取組について

観光地の各種施設では、ふるさと納税自販機の設置や、QRコードを含んだふるさと納税案内の掲出が見受けられる。観光やスポーツ、地産地消の食事の後など、ふるさと納税に興味を示す方も多いただろう。

自販機は、令和3年12月、那須町が県内初、道の駅と大手ホテルに設置した。令和4年11月には、鹿沼市が、市内13のゴルフ場で組織する鹿沼地区ゴルフ場協議会と「ふるさと納税事業協力協定」を締結し、ゴルフ場に設置した。昨年11月には、自販機広告によって設置費用、運用費用を無料にし、自治体の負担無しでの導入を可能にする企業も現れた。

栃木県や各種団体、民間企業と連携し、費用対効果の高い手法で「ふるさと納税」に取り組む時であ

<p>4 果樹農家への支援について —「誰一人取り残さない支援」を—</p> <p>(1) 技術支援等について</p> <p>(2) 後継者問題への対応について</p>	<p>る。今後の取組について伺う。</p> <p>地球温暖化と害虫の急増により、矢板のりんごは壊滅的な被害を受け、生産量が例年の 10 分の 1 という農家もある。</p> <p>農家の方から要望されていたしば焼きが調整され、害虫被害については軽減される可能性が高くなったが、地球温暖化対応策として、技術支援等が必須となってくる。</p> <p>今後の果樹農家への支援についての意向を伺う。</p> <p>農業従事者の高齢化に伴い、後継者問題が深刻な課題になっている。一方で市内には、家業を継ぎ事業の拡大を図っている若手農業従事者もいらっしゃる。また大規模農家が、田んぼや畑、果樹園などを引き継いでくださる事例もあると伺っている。</p> <p>現在、後継者がいない果樹農家において、農業の承継の一助となるように、後継者を確保する仕組みを構築してはいかがか。</p> <p>後継者問題への対応について市の考えを伺う。</p>
--	--

一般質問通告一覧表

第401回定例会議

発言順序 2 議席番号 2 氏名 榊 真衣子

質問事項	質問要旨
<p>1 プレコンセプションケアについて</p> <p>(1) 若者ライフデザイン支援について</p> <p>(2) プレコンセプションケアの実施方針について</p> <p>(3) フェムテックに関する取組について</p> <p>2 ふるさと納税について</p>	<p>栃木県は、若い世代が将来のライフプランを考え日々の生活や健康と向き合う「プレコンセプションケア」を推進する方針を示しています。</p> <p>プレコンセプションケアは、若者のライフデザイン支援や、男女ともに健康への理解が進むことによる女性活躍推進にもつながる重要な考え方であり、また若い世代が結婚・出産に対する希望を持ち、それをかなえるためにも必要なものであると考えます。</p> <p>これに関連して以下の質問をいたします。</p> <p>これからは、プレコンセプションケアを踏まえた若者のライフデザイン支援が必要になると考えます。令和6年9月の「若者ライフデザイン支援」についての質問の答弁では、県と共催で支援事業を実施するとのことでしたが、実施状況について具体的にどのような進展があったか、また、本市における課題の調査・分析を踏まえた今後の方針について伺います。</p> <p>栃木県の次年度の方針として示されているプレコンセプションケアの推進に関して、本市としてはどのような取組を進める予定か、今後の方針について伺います。</p> <p>プレコンセプションケア推進の一環として、フェムテックの活用が効果的だと考えます。例えば、宇都宮市ではフェムテック関連企業との協定により、女性の健康情報サービスアプリの有料版が無料で利用できる取組が始まったとのことですが、本市においてはフェムテック活用の可能性についてどう考えているか、また、どのような形で活用していく方針かを伺います。</p> <p>ふるさと納税は本市にとっては貴重な収入源であり、返礼品の工夫や、まだふるさと納税をしたことのない層へのアプローチによって寄附額を増や</p>

	<p>す余地があるものと考えます。本市におけるふるさと納税に関する取組について伺います。</p>
<p>(1) 寄附額の目標について</p>	<p>ふるさと納税の今年度の寄附額の目標と実績（見込み額及び見込みの収支）、また、それを踏まえた次年度の方針について伺います。</p>
<p>(2) マーケティングについて</p>	<p>掲載サイトの選定、返礼品のラインナップや重点的に対応する時期などについて、寄附者の行動的属性をどのように想定・分析して対応しているのか、現状実施している施策について伺います。</p>
<p>(3) 積極的な営業と、リピーターやファンをつくる施策について</p>	<p>企業の決算前の時期を狙って「企業版ふるさと納税」に関するダイレクトメールを送っている自治体や、ふるさと納税のお礼状を手書きで作成している自治体もありますが、このような積極的な営業や、リピーターやファンを増やす努力について、本市の取組状況を伺います。</p>
<p>(4) クラウドファンディング型ふるさと納税を利用したイベント支援について</p>	<p>クラウドファンディング型のふるさと納税を地域の伝統的なお祭りの開催に活用している事例があります。これまで本市では、市民の方々の熱意と努力により様々なイベントが開催されてきましたが、毎年イベントごとの協賛金集めや、本業の傍らでのイベント準備に大変苦勞している現状があります。今後の継続的なイベント支援に向けて、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用してはいかがでしょうか。</p>

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 3 議席番号 4 氏 名 齋藤 典子

質 問 事 項	質 問 要 旨
1 ほ場整備について	<p>農地を守るためには、常に耕作しやすい状態にしておかなければ耕作することをやめてしまい耕作放棄地になってしまいます。やはり農地の整備は重要であると考えます。</p> <p>現在、既に市内のほとんどの地区においてほ場整備が実施されていますが、昭和 30 年から 40 年に整備された地区では、ほ場の区画が小さく、水はけが悪いほ場も、見受けられることなどから農地を貸したくても借り手がつかないことがあります。</p> <p>この状況を改善するために、ほ場の再整備が必要と考えます。</p> <p>農家の負担を軽減するために、国の補助制度に加え、矢板市としての支援策について伺います。</p>
2 井戸水について	<p>令和 6 年 3 月第 394 回定例会議において災害時の井戸水登録についてお願いしてはどうかという質問が渡邊議員からありましたが、4 市 2 町で登録制度を実施しているということで、課題はあるが実施に向けて検討しているとの答弁がありました。</p> <p>昨年 1 月能登半島地震において上水道が、地震で使えなくなって大変な苦勞をなされたかと思えます。矢板市でも石川県輪島市へ、水道課の方たちが、応急給水活動に行かれました。</p> <p>矢板市でも災害があったとき、電気さえ通っていれば地下水は使えますので一時的に飲料水として提供していただける方を登録していただければ災害防止も含めて安心できます。その後の登録に向けての検討はどのようになったか伺います。</p>
3 詐欺被害について	<p>マスコミ新聞報道では減る気配がなく、特殊詐欺をはじめとする詐欺被害が全国的に増加しています。</p> <p>令和 5 年 12 月第 391 回定例会議でも防犯について質問いたしました。警察と連携して注意喚起を行うことや、特殊詐欺電話機器購入費補助金についての答弁がありました。</p>

現在は携帯電話を利用した詐欺被害またネット詐欺などが多発していて、高齢者はその標的となっています。昨年8月携帯電話による詐欺被害に遭われ数十万円を振り込んでしまった方もおり、詐欺の手口が巧妙化してきております。

高齢者においては、広報誌やきらきらサロンの出前講座での啓発活動は有効と思われます。市として市民一人ひとりが被害に遭わないための環境整備づくりも必要と考え提案しますが、強化すべき点について市の見解を伺います。

#### 4 洋式トイレの必要性について

高齢化が進む中、膝や腰に負担がかかり和式トイレの使用が困難な方が増えてきています。家庭に設置されている洋式トイレの保有率は90%を超えているそうです。洋式トイレは、必要不可欠と考えます。

市民が利用する各公民館や農村環境改善センターにおいて、まだ和式トイレもありますが、公民館などでは高齢者の方たちが、盛んに活動されております。そのような中どうしても和式トイレは使いづらいといった意見が寄せられており、特に、片岡公民館においては二階のトイレに洋式トイレがなく、多くの方たちが集まる時は、一階の洋式トイレに並んでしまう状況です。

他の施設においても洋式トイレの少ない所は同じ状況が考えられます。今後、公民館などの公共施設のトイレの洋式化を検討されているのか伺います。

#### 5 道の駅やいたのイベントについて

令和7年1月24日に株式会社やいた未来と株式会社チェリーランドさがえは、矢板市及び寒河江市両地域の農業振興及び観光振興に関する連携協定を締結しました。

翌25日には山形県チェリーランドさがえが、道の駅やいたに出店され、山形名物玉こんにゃくや、寒鱈汁を販売して大成功に終わったと伺いました。そのことにより道の駅に搬入している生産者からは、多くの品物が売れてありがたいというお話を耳にしました。今後6月のサクランボの時期にも出店するとのことでしたが、できることなら他の県の道の駅とも連携協定を進めてはどうかと考えますが、市の見解を伺います。

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 4 議席番号 13 氏 名 伊藤 幹夫

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 重点支援地方交付金を活用した矢板市の「経済対策」への取組について</p>	<p>昨今、ガソリン・灯油・電気代のエネルギー、野菜・米を含む食料品等の物価高騰が市民生活に大きな影響を与えています。</p> <p>2024年12月、帝国データバンク定期調査によると、主要な食品メーカー195社における2025年の食料品値上げは3,933品目（値上げ率平均約17%）に達し、2025年を通じて値上げは継続的に見込まれるとし、1月から4月にかけて、多くの商品で値上げが予定されています。</p> <p>そのような中、令和6年12月、物価高騰対策として国により「重点支援地方交付金」の追加が計上され、令和6年度補正予算が成立しました。</p> <p>矢板市におきましても、市民や事業者の方々から、プレミアム商品券やクーポン券についての問合せや、要望を多く伺います。</p> <p>それらを踏まえ、矢板市において国の「重点支援地方交付金」を活用した「経済対策」への取組について質問いたします。</p>
<p>2 矢板市の「住まいの防犯対策」の取組について</p>	<p>ニュースなどでも報じられていますが、一般住宅を狙った「侵入犯罪」は、近年荒々しい手口が目につきます。周囲に気付かれないようにひっそり行うものではなく、住人の在宅の有無にかかわらず複数人で窓などを破壊して住宅に押し入る、宅配業者や点検業者を装うなどの方法で住宅に押し入り、現金や貴金属を奪い取るなどといった、巧妙かつ凶悪な手口のものが増えています。</p> <p>政府広報（空き巣や強盗から命と財産を守る「住まいの防犯対策」2024年12月11日）によりますと、空き巣などの「住宅を対象とした侵入窃盗」は平成16年以降連続して減少しています。しかし、凶器などで住人を脅して金品を強奪する「住宅を対象とした侵入強盗」に関しては、平成17年以降、おおむね減少傾向が続いていたものの、令和4年には増加に転じました。さらに、手口の巧妙化・凶悪化が進んでいることから、これまでの防犯対策をより一</p>

層強化していくことが求められています。

侵入者が侵入を諦める物理的な防犯対策として荒々しい手口に対応するため、物理的な防犯対策を施すことも効果的です。

矢板市としましても、市民の安心・安全、命を守るためにも「住まいの防犯対策」に注力すべきと考えますが、矢板市の「住まいの防犯対策」の取組について質問いたします。

### 3 「みんなの廃校プロジェクト」の活用について

2016年、厚生労働省の人口動態統計によりますと、2016年の出生数は976,978人で、1889年の統計調査開始以来、初めて100万人を割りました。

また、文部科学省によりますと、少子化に伴う児童生徒数の減少等により、毎年平均450校、令和3年度時点で8,580校が廃校になりました。

(平成14～令和2年度累計)

廃校活用推進のため、文部科学省では、「みんなの廃校プロジェクト」として、廃校を使ってほしい自治体と廃校を使いたい企業等への情報発信・マッチングを行い、廃校活用に利用可能な各省庁の支援制度について情報発信を行っています。

廃校は地域の思いが詰まった施設であるため、地域の意向を踏まえながら検討、活用を進めることが求められています。

矢板市におきましては、サウンディング型市場調査により廃校の利活用をすると説明がありましたが、そのようなプロセスを活用し「みんなの廃校プロジェクト」に登録し、推進していくことが必要と考えますが「みんなの廃校プロジェクト」の活用について質問いたします。

### 4 矢板市の5歳児健診の取組について

子供の発育状況などを確認する乳幼児健診は、1歳半と3歳での健診が母子保健法で義務付けられていますが、5歳児健診は自治体の任意で、国の調査では令和4年度は全国の自治体のうち14.1%が実施していました。

5歳前後は対人関係や言葉の発達の遅れなどが見えやすくなる時期とされることから、こども家庭庁は発達障害などを早期に発見して就学前に必要な支援につなげようと、昨年度から5歳児健診を実施する自治体に費用を補助しています。

令和10年度までに全国の自治体での実施を目指すとして、今年度は、健診費用の補助額を引き上げて市町村と国が二分の一ずつを負担するとしたほ

か、継続して支援する体制を整備するため保健師や心理士などへの研修費用も補助するなど、支援を強化しました。

また、生後1か月の子供の健診についても、発育や栄養状態の確認のほか、虐待の予防や発見につながるとして5歳児健診と同様に補助額を引き上げるなど、全国の自治体での実施を目指しています。

また、5歳児健診後の「地域のフォローアップ体制」が重要で保健・福祉・医療の部門、児童発達支援センター等と教育委員会の連携が求められています。

矢板市における5歳児健診は積極的に行っていると認識しておりますが現状と今後の取組について質問いたします。

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 5 議席番号 1 氏 名 渡邊 英子

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 子育て環境整備の一環としての子供の遊び場の充実について</p> <p>(1) 子ども未来館の利用拡大について</p> <p>(2) 長峰公園の遊具の拡充について</p>	<p>子供を産み育てやすい環境づくりの一環として、子供たちが安全に楽しく、お金をかけずに遊ぶことができる遊び場の充実を図る必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>子ども未来館には、無料で遊べる屋内遊具施設や飲食もできる休憩室、学生たちが勉強できる学習室がありますが、今後は、さらに多くの子供たちが利用できるように1階の図書コーナーの充実や調理室の活用、屋外遊び場の設置など、拡充を図っていく必要があるのではないのでしょうか。子ども未来館の今後の利用拡大について、市の考えを伺います。</p> <p>子供たちが、公園の遊具で遊ぶことは、運動神経や体力の向上だけでなく、創造力や社会性の発達なども期待できます。</p> <p>発達段階の子供にとって外遊びは大切なことであり、公園の役割は重要です。</p> <p>市内外を問わず、より多くの子供たちに来てもらえるように遊具の設置を進めてはどうでしょうか。市の考えを伺います。</p>
<p>2 矢板市が目指す子育て環境整備に対する男女共同参画社会の取組について</p>	<p>男女共同参画推進と子育ての関係は男女が共に家事や育児・介護などの家庭責任を担うことで、子育てを円滑に行い、あらゆる分野で活躍できる社会を実現することであるとされ、人権擁護も含め、子育て環境整備にも大きく影響してきます。</p> <p>男女共同参画社会の実現を目指すために矢板市として、男性だから女性だからという固定観念に捉われずに仕事も子育ても両立できる環境づくりに対しての今後の進め方について伺います。</p>
<p>3 就労環境の改善のための地元企業への働きかけについて</p>	<p>地域全体での子供の成長、子育ての支援の促進には、企業の理解と協力も必要です。</p> <p>仕事と家庭の両立を支える環境整備として、就労環境改善のための地元企業への働きかけを具体的にはどのように進めていくのでしょうか。</p>

<p>4 子供たちのための性教育の必要性について</p>	<p>性に対する間違った考えや行動によって悲しい事件や傷つく子供・若者が増えています。子供・若者の人権尊重のためにも正しい性への理解と知識は重要です。性教育については、学校や家庭も含め、それぞれが連携した具体的な取組が必要と考えます。</p> <p>専門的な知識を持つ医師や助産師などの協力も得ながら、各学校における性教育を確実に進めていく必要があるのではないのでしょうか。市立小中学校における性教育について市の教育方針を伺います。</p>
<p>5 城の湯温泉センターの有効利用について</p> <p>(1) 宿泊室の利用について</p> <p>(2) 入浴料の年間パスポート設置について</p> <p>(3) 城の湯温泉センターのポイントカードの特典拡充について</p>	<p>城の湯温泉センターの集客増加に向けて、施設の有効活用やサービス面の工夫を行い売上げアップにつなげる施策について伺います。</p> <p>家族だけでゆっくり休憩したい場合や幼児や赤ちゃん連れでも周りに気遣いせずに休憩できる場所として、宿泊の予約が無い日やチェックイン前の時間帯で利用時間や金額を定めて、個室休憩室としての利用をできるようにしてはいかがでしょうか。</p> <p>温泉施設によっては、市民サービスとして、年間パスポートを発行しているところがあります。城の湯温泉でも年間パスポートの導入をできないのでしょうか。</p> <p>城の湯温泉センターのポイントカードを道の駅の商品割引にも利用できるようにし、道の駅の顧客増加につなげてはいかがでしょうか。</p>

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 6 議席番号 9 氏 名 櫻井 恵二

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 地籍調査について</p> <p>(1) 本年度の進捗状況について</p> <p>(2) 矢板駅・片岡駅周辺の市街地整備について</p> <p>2 木質バイオマス発電事業への対応について</p> <p>3 道の駅やいたについて</p> <p>(1) 今後の売上げの見通しについて</p> <p>(2) 今後の運営について</p> <p>4 新庁舎について</p>	<p>令和5年12月第391回定例会議の一般質問において、地籍調査の進捗状況について積極的に取り組んでいくとの答弁をいただきましたが、本年度の進捗状況についてお伺いします。</p> <p>地籍調査を契機とする、矢板駅西側及び片岡駅東側の市街地整備についての取組についてお伺いします。</p> <p>令和6年6月第396回定例会議の一般質問において、木質バイオマス発電事業への環境的な懸念について、神谷議員から質問があり、「認定制度に基づかない自家発電や熱利用等を目的とする木質バイオマス事業の事案が生じた場合は、関係法令の順守を求めるとともに、安全性を守ることにについて、国及び県の指導を仰ぎながら、科学的根拠にも照らした上で適正に対応してまいります。」との答弁がありました。</p> <p>どのように科学的根拠に照らして対応していくのか、お伺いします。</p> <p>売上高が昨年度、過去最高となりましたが、今後の売上げの見通しについてお伺いします。</p> <p>今後、集客や売上げを伸ばしていくために、駐車場の拡張や農産物販売エリアの拡大などの必要があると考えますが、今後の運営についてお伺いします。</p> <p>新庁舎建設に向けた取組の今後の進め方についてお伺いします。</p>

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 7 議席番号 5 氏 名 神谷 靖

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 防災備蓄品について</p> <p>(1) 内閣府による備蓄に関する調査の公表内容について</p> <p>(2) 今後の対応について</p>	<p>能登半島地震を受けて全自治体を対象に備蓄状況の調査が初めて行われ、内閣府は1月に調査結果を公表しました。以下、防災備蓄品について質問します。</p> <p>内閣府が実施した災害用物資・機材等の備蓄状況に関する調査について、調査概要と本市の結果について伺います。</p> <p>政府は、年1回の備蓄状況公表を義務付ける方針で、今通常国会で災害対策基本法改正が見込まれています。市民への備蓄品の見える化を図るための今後の対応について伺います。</p>
<p>2 学校体育館への空調設置について</p>	<p>避難所となる公立小中学校体育館への空調設備の設置状況は令和6年9月時点で18.9%であるため、設置促進が必要な状況となっています。</p> <p>本市の学校体育館への空調整備の加速化について伺います。</p>
<p>3 帯状疱疹ワクチンの予防接種について</p> <p>(1) 現状について</p> <p>(2) 今後の対応について</p>	<p>令和6年度から帯状疱疹ワクチンの予防接種費用の一部助成が始まりましたが、本年4月より帯状疱疹ワクチンが定期接種の対象となります。以下、帯状疱疹ワクチンの予防接種について質問します。</p> <p>現在、本市において実施されている帯状疱疹ワクチンの予防接種費用の一部助成事業について、接種実績などの状況について伺います。</p> <p>帯状疱疹ワクチンの定期接種化後の対応について伺います。</p>
<p>4 太陽光発電施設の設置・管理に関する条例について</p>	<p>現在本市では、太陽光発電事業者による適切な事業実施のため、「矢板市太陽光発電施設の設置及び管理に関する指導要綱」によって対応しています。今国会において太陽光パネルのリサイクル義務化を目指す動きがあることから、太陽光発電施設の設置・管理に関する条例を検討すべきと考えますが、</p>

当局の見解を伺います。

一般質問通告一覧表

第 401 回定例会議

発言順序 8 議席番号 7 氏名 掛下 法示

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1 農業政策について</p> <p>(1) 耕作放棄地の市民による活用について</p> <p>(2) 有機農業について</p> <p>2 用途地域の拡大について</p>	<p>日本の食料自給率は、昭和 40 年以降長期的には低下傾向にあり、農家の高齢化も進んでいます。このような状況が続くと、日本の農業は危機的な状況に陥り、食料安全保障が脅かされる可能性があります。この問題を解決するためには、若者をはじめ多くの市民が農業に従事できるような政策が必要だと考えます。</p> <p>矢板市においても、農業を支援するための取組を行う必要があると考え、農業政策についてお伺いします。</p> <p>農業が主産業の矢板市において、昨年 7 月頃に一部の店頭で米が無くなり、食料安全保障の脆弱化が進んでいるのではないかと危惧しています。</p> <p>食料自給率向上については、地方自治体においてもやれることがあると考えます。市民が耕作放棄地を耕して、農家の皆さんとともにローカル食料自給圏をみんなで作ったり、それを市がサポートしていく流れをつくり、ひいては不測の事態に対応できる流れをつくることになると考えます。</p> <p>市は市民への耕作放棄地の紹介、農業指導、農業機械補助、農業者募集等についてサポートしていただければと思いますが、市の考えを伺います。</p> <p>大量に使う化学肥料の影響による環境被害、残留農薬による人体への悪影響等の懸念があります。</p> <p>国では有機農業用の農地の割合を約 25%に拡大する計画を立てています。</p> <p>令和 4 年 3 月に有機農業拡大について質問しましたが、市の答弁は、有機栽培に意欲的な農業者への情報提供に努めるとの答弁でありました。本市の有機農業用の農地の割合と今後の計画について伺う。</p> <p>地球温暖化が要因と思われる、線状降水帯による被害の頻度は高まっています。</p> <p>住宅地、商業地などの用途地域は、洪水浸水想定</p>

	<p>区域を抜いて、比較的高台に位置している国道4号東側を加えてはどうかと考えます。</p> <p>市の考えを伺います。</p>
<p>3 総合戦略策定検討委員会への市民公募参加について</p>	<p>総合戦略策定検討委員会への公募による市民参加要望が15人あり、うち9名を選出したと聞いています。応募者からはなぜ外されたかの問い合わせもある。応募者はまちづくりについての積極的な意見を持っている人が多い。幅広い意見を聞くには、全員参加させるのが望ましいと思います。</p> <p>市の考えを伺います。</p>
<p>4 中北交差点の渋滞解消について</p>	<p>平成28年のとちぎの道現場検証において、当時の矢板市長と地元行政区長、県職員、他関係者による中北交差点の道路現場検証を行い、渋滞の状況を確認しています。</p> <p>県道の渋滞解消策として、国道4号の拡幅工事に合わせて、中北交差点に接続している県道矢板那珂川線を、中交差点に付け替えることが説明されました。あわせて県道側への歩道橋追加が必要となります。</p> <p>中北交差点渋滞解消の取組と現状について伺います。</p>
<p>5 矢板市文化スポーツ複合施設の課題について</p>	<p>矢板市文化スポーツ複合施設の課題に対する今後の方針について伺います。</p>
<p>(1) 多機能ホールの音の反響問題について</p>	<p>多機能ホールは音の反響が大きく、聞こえづらいことがあります。</p> <p>音楽鑑賞や講演会としても使用することから、音響の改善について伺います。</p>
<p>(2) 多機能ホール・会議室のシューズについて</p>	<p>多機能ホールの会議利用や2階会議室利用時にスリッパに履き替えることにより、混雑と履き間違いの問題が生じています。シューズのままで利用できるようにしてはいかがでしょうか。市の考えを伺います。なお床の傷防止のためには、ゴム底シューズを履くように注意を促してはどうでしょうか。</p>
<p>6 たかはらマラソンについて</p>	<p>たかはらマラソンについて、コロナ禍前はハーフ、10km、5kmのコースがあり、県外からも多くの参加者がありました。</p> <p>しかし、現在は5kmに短縮され、参加者の減少も著しい状況です。</p> <p>スポーツツーリズムをうたう本市としては、参加</p>

者を呼び込むために、長距離コースの復活が必要と  
考えます。

市の考えを伺います。

一 般 質 問 通 告 一 覧 表

第 401 回定例会議

発言順序 9 議席番号 8 氏 名 宮本 莊山

質 問 事 項	質 問 要 旨
1 城の湯やすらぎの里について	事業計画や経費についての現状と課題、次年度以降の取組についてお伺いします。
2 地域社会の活性化について	<p>行政区を中心とする地域の活動が縮小傾向にあると捉えています。この要因として、行政区への加入率減少の影響が大きいと考えます。</p> <p>加入率増加へつなげていくための、市の取組についてお伺いします。</p>
3 日本遺産に認定された文化財の活用について	<p>日本遺産に認定された「矢板武記念館・山縣有朋記念館」は大変価値のある文化財です。</p> <p>より多くの市民に認知され、保護につなげていくために、これらの文化財の活用を図り、現在の事業をさらに展開する必要があると考えます。</p> <p>市の考えを伺います。</p>
4 中学生の海外派遣について	<p>現在、矢板市では英語圏への中学生の海外派遣は行われていません。</p> <p>将来の地域社会の発展に資する人材を育成するため、過去に実施した海外派遣事業の結果を検証した上で、英語圏での国際交流の場を設ける必要があると考えます。</p> <p>中学生の海外派遣について市の考えを伺います。</p>